

資源循環型施設整備基本計画検討委員会「これまでの検討経過と決まったこと」について

- I 検討委員会の趣旨 「一般廃棄物資源化基本計画」の実現 ①発生・排出抑制：1万1,000トンの抑制（人口増加3,000トン・生ごみ5,000トン・事業系ごみ3,000トン） ②資源化率：54% ③生ごみの新たな資源化（生ごみ処理機3,000トン・バイオガス化1万9,000トン） ④プラスチックごみの資源化：6,700トン ⑤温室効果ガスの削減（排出分1万7,000トン・廃棄物からのエネルギー回収5,400トン（CO₂換算））
- II 施設整備の考え方 必要な施設と規模、場所等の検討
- III 建設スケジュール 2020年度稼働までの予定

整備基本計画

1. 処理施設について

検討内容

人口とごみ量の設定	2027年度推計(基準年2010年度)
資源化・処理対象物の設定	可燃・可燃性粗大・不燃及び不燃性粗大(資源分別後)・資源化物
基準ごみ質等基礎数値の設定	処理対象物の組成から(計画資源化量を除く)
資源化・処理方式の検討	生ごみ資源化(バイオガス化施設)と熱回収方式、焼却灰の資源化(エコセメント化と熔融スラグ化)

2. 処理方式選定について

基本事項

項目	主な検討の内容	委員意見等	決まったこと
(1) 生ごみの資源化と有効利用(バイオガス化の検討) 肥料として資源化に適さない生ごみを発酵させバイオガスを有効利用する検討	<p>○生ごみの回収方法は、当面は現状の方法で回収し、機械選別機で生ごみを取り出す。</p> <p>○将来的には、分別収集の事業化に向けて、モデル地区を定め収集体制と、発酵残さの活用方法を検証することも視野に入れる。</p> <p>○発酵残さは補助燃料とするため、熱回収設備と一体に整備する必要があるが、資源の利用に向けた技術の導入・実用化の技術研究に合わせ、今後検討していく。</p>	<p>検討委員会・第1回 (2011年5月17日)</p> <p>●生ごみの資源化は、現時点ではバイオガスしかないだろう。1万9,000トンの施設はかなり巨大となる。</p> <p>検討委員会・第2回 (2011年6月30日)</p> <p>●交付金対象施設のコストに関する資料を示してほしい。</p> <p>検討委員会・第4回 (2011年8月29日)</p> <p>●熱回収施設をできるだけ早くできないかということがひとつ。熱利用、収集ごみのことから考えると熱回収施設とバイオガス施設は一体型で考えたほうがいいだろうということ。その際に小型の実験から確実にやっけていこうということ、今あるビン・カン選別施設は環境を重視した形で少しは分散化できるのではないかというような意見だったと思う。</p> <p>●小型のバイオガス施設を先に作ってという件は、余っている生ごみ180tの処理ができないので、やはり非常に難しいのと、新設には補助金が出るが、増設はおそらく出ない。最初小さいのを作って後から増やすというのは経済的にもかなり非効率になる。</p> <p>整備部会・第1回 (2011年9月29日)</p> <p>●バイオガス施設は実験的に小さい規模で提案したい。一極集中で大きな施設を作ることには地元の抵抗があると思う。</p> <p>●事例資料を見て、バイオガス施設は、設備の電気使用量が、発生量より多い施設がある。資源回収の施設ではない。</p> <p>●バイオガス施設の残さ(補助燃料)は、焼却することになるので焼却炉と同じ場所に建設することになる。</p> <p>整備部会・第3回 (2011年12月8日)</p> <p>●お金がかかる割に残さが多く、敷地面積も必要となる。バイオガス施設の設置は現実的に厳しいのではないか。</p> <p>●焼却量を減らす目的ならバイオガス化ということも理解できる。しかし、利益を出す、発電量を増やす、資源回収をするという目的でバイオガス化を選択するのは非常に疑問である。</p>	<p>検討委員会・第1回 (2011年5月17日)</p> <p>★生ごみを1万9,000トン資源化するための基本は「バイオガス化施設」とすること。</p> <p>検討委員会・第4回 (2011年8月29日)</p> <p>★バイオガス発酵槽の加温、可燃ごみの機械選別による発酵不適物や発酵残さの焼却(補助燃料)を考慮すると熱回収施設とバイオガス施設は一体に整備すること。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ●実験的に小さい施設を作ると、その施設でカバーできない生ごみの処理をどうするのかという問題があり、建替えの時間的な制約を考えると、結局大きな焼却施設を作らなければならないという話になってしまうことを危惧する。 ●生ごみだけを純粹に収集するにはバケツしかない。手間が多く現実的ではないと考えている。バケツを導入しない理由は市民への負担が大きいためである。市民に負担をかけないという観点から機械選別を検討してきた。 ●今、市民に分別の手間という負担をかけない代わりにバイオガス化のお金をかけるという構図になっている。ごみ処理に関しては、市民にはもっと手間をかけ、ごみのことを意識してほしい。 <p>整備部会・第4回（2012年1月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ガスの利用方法について、ガスを製造したものの、燃やして発電するのでは何のためのバイオガス化なのかわからない。CNGとして有効利用する方がよいと思う。 <p>検討委員会・第8回（2012年3月28日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「基本はバイオガス化」で合意がとれていると思うが、コスト、面積や技術的な問題、効率性、生活環境への影響、安全面の観点など評価については検討が必要である。 <p>整備部会・第6回（2012年3月28日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バイオガス化施設の検討については、「全部焼却する場合」、「発生したバイオガスを燃焼させて発電する場合」、および「バイオガスをさらに精製して使う場合」について、投資がいくらで、維持費がどうなって、どういうメリットがあるのか（二酸化炭素がどうなるのか）など、3つのパターンを比較して全体を整理してほしい。 ●環境省の資料について、「二酸化炭素排出量の試算の根拠」「人件費の試算の考え方」「薬品代」を、確認してほしい。 ●バイオガス化施設の残さの焼却について、市民意見として「残さを焼却することに反対。基本理念に反する。」というのがある。町田市一般廃棄物資源化基本計画（2011年4月）には、「脱水残さは焼却処理もしくは堆肥化されます。発酵残さの一部が液肥として利用されるケースもあります。」とある。どのようにするかは、受け皿があるかどうかで違ってくる。 ●今、生ごみ処理機で生ごみを3,000トン減らそうというということで四苦八苦している。それに対して、バイオガス化すれば、焼却量が、1万9,000トン減らすことができる。その点は重要視すべだと思う。 ●これまでバイオガス化施設に関してアンケートに回答していただいた会社は2社だけであり、この2社のデータをベースに施設やコストや面積の検討を進めすぎている感がある。事務局は、もう一度、他の会社にもデータを出させる努力があってもいいのではないか。 	
(2)焼却灰の再利用 (エコセメント化と熔融スラグ化の検討)	<p>○現在、焼却灰は東京たま広域資源循環組合(以下、組合という)に運搬しエコセメントの原料に加工されている。</p> <p>○町田市は三多摩各自治体とともに、組合の構成市であり、相応の責任と役割</p>	<p>整備部会・第4回（2012年1月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●灰処理について、使用電力量が多いこと、発生スラグ等の普及促進が進まない状況にあること、三多摩でエコセメント事業を推進する現状があることから、町田市としては灰熔融施設を建設しない方向で考えている。 ●スラグの用途が少ないのに、ガス化熔融炉が作られるのはなぜか。 	<p>整備部会・第4回 (2012年1月19日)</p> <p>★焼却灰の再資源化策はエコセメント化を継続していくこと。</p>

<p>焼却灰の有効利用について検討</p>	<p>分担を担っている。 ○組合に持込む焼却灰は製品として普通セメントの分野で使用され、エコセメント事業者は製造、販売、需要等に責任を持ち活用が促進されている。 ○資源循環事業として順調に進んでいるが、施設整備・灰の原料加工等で製造コストがかかり各構成市の負担が大きい。 ○しかし、町田市単独で灰溶解炉を設置した場合、溶解スラグは市場の需要動向が不安定であることから、焼却灰の利用はエコセメント化の方向で考える。</p>	<p>●埋立地がない市町村はどんなにお金がかかってもスラグ化している。炉の選択とスラグ化しているかどうかは少し次元が違う。</p>	
<p>(3) 廃熱の有効利用 (効率的ごみ発電設備の検討) 次世代リサイクル施設整備でエネルギー回収を検討</p>	<p>○ごみの持つエネルギーを最大限利用するため、焼却廃熱を積極的に回収して、発電電力化やコミュニティ施設への熱源供給等を積極的に図るための効率的な設備が必要である。</p>	<p>候補地部会・第2回 (2011年10月24日) 整備部会・第2回 (2011年10月31日) ●循環型社会形成推進交付金交付要綱別表1の第3「高効率ごみ発電施設の整備事業」は、平成25年度まで時限措置(交付率1/2←1/3)。交付率1/2の交付金を受けるためには、循環型社会形成推進地域計画を2012年12月までに策定する必要がある。</p>	<p>候補地部会・第2回 (2011年10月24日) 整備部会・第2回 (2011年10月31日) ★「高効率ごみ発電設備の導入」を含む循環型社会形成推進地域計画を策定すること。(2012年12月目途)</p>
<p>(4) 熱回収設備(焼却設備) 環境負荷の低減と安全な処理の検討</p>	<p>○熱回収設備のポイントは、焼却灰のエコセメント化や高効率発電に加えて、安全性と環境負荷を抑えることが重要になる。 ○このため、全国的な稼働実績と最近の導入状況を踏まえると、流動床式とストーカ式があるが、流動床式(ガス化溶解を含む)は炉内に稼働部がなく、ごみは浮遊燃焼のため焼却時間が早い。運転停止等の間欠運転が容易であるが、ごみの均一化や燃焼管理が複雑である。 ○一方、ストーカ式は炉内の階段床でごみを移動燃焼するため焼却時間は長い、安定焼却により燃焼管理が容易である。 ○両方式の運転の安定性、稼働・採用実績や焼却灰の非スラグ化等も含め総合評価し、ストーカ式を選択する。</p>	<p>検討委員会・第4回 (2011年8月29日) ●地元は一極集中については従来から大反対。効率だけ考えて、ここに集中するということになると大変な問題になる。 ●焼却施設を例えば他の数地区に作るという話をしたら何年かかかったら解決するのか分からない。 整備部会・第2回 (2011年10月31日) ●粗大・不燃処理施設は、実際は破碎して焼却施設に回している所なので、焼却施設と同じ場所になる。離せるとしたら資源ごみ処理施設を分ける事になる。 整備部会・第4回 (2012年1月19日) ●灰の処理など、町田市が置かれている状況を考えてとストーカ炉が最も妥当なのではないか 整備部会・第6回 (2012年3月28日) ●エネルギー回収推進施設の選定基準は、安定稼働が1番で、今までの実績から熱回収施設であるごみ焼却施設とガス化溶解施設が候補。アンケートの実施に関してエネルギー回収施設で、例えばRDF、ごみ燃料化する様なプラントは恐らく論外であるということで議論を進めて行くということになる。 整備部会・第7回 (2012年5月20日) ●熱回収施設の炉の数は、経済効率、運転の安定を加味して、2炉としている例が多い。</p>	<p>整備部会・第4回 (2012年1月19日) ★現在実用化されている熱回収施設の方式(ストーカ炉、流動床炉、ガス化溶解炉)のうち、灰の処理など、町田市が置かれている状況や運転の安定性、稼働・採用実績等を考慮し、「ストーカ炉」を採用すること。 整備部会・第7回 (2012年5月20日) ★熱回収施設「ストーカ炉」の数は、経済効率、運転の安定を加味して、「2炉」とすること。</p>

<p>(5) 排ガス処理設備</p> <p>環境負荷の低減と安全な処理の検討</p>	<p>○周辺環境に配慮し有害物質の削減を図る。自主規制値は項目毎に設定する。(メーカーアンケートで自主規制値の可能性を確認)</p> <p>① ばいじん ② 硫黄酸化物 ③ 窒素酸化物 ④ 塩化水素 ⑤ ダイオキシン類 ⑥ 水銀</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> 酸素濃度 12%換算 </div>	<p>整備部会・第6回 (2012年3月28日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●排ガスの自主規制値については、最新の技術を使用したら、どこまで低減できるかということは知っておきたい。 <p>整備部会・第7回 (2012年5月20日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自主規制値の定義を明らかにし、みんながわかるようにした方がよい。 ●窒素酸化物の自主規制値 10 は技術的には可能かもしれないが、常時達成するのが難しい上、アンモニアを相当量吹き込むことになる。それがいいことなのかと考えて行くと、トータルのバランスも必要なのではないかと思う。 	<p>整備部会・第7回 (2012年5月20日)</p> <p>★自主規制値は、技術動向や実績を考慮し、以下とすること。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>自主規制値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ばいじん</td> <td>g/m³N</td> <td>0.005 以下</td> </tr> <tr> <td>硫黄酸化物</td> <td>ppm</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td>窒素酸化物</td> <td>ppm</td> <td>30 以下</td> </tr> <tr> <td>塩化水素</td> <td>ppm</td> <td>10 以下</td> </tr> <tr> <td>ダイオキシン類</td> <td>ng-TEQ/m³N</td> <td>0.01 以下</td> </tr> <tr> <td>水銀</td> <td>mg/m³N</td> <td>0.05 以下</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	自主規制値	ばいじん	g/m ³ N	0.005 以下	硫黄酸化物	ppm	10 以下	窒素酸化物	ppm	30 以下	塩化水素	ppm	10 以下	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.01 以下	水銀	mg/m ³ N	0.05 以下
項目	単位	自主規制値																						
ばいじん	g/m ³ N	0.005 以下																						
硫黄酸化物	ppm	10 以下																						
窒素酸化物	ppm	30 以下																						
塩化水素	ppm	10 以下																						
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	0.01 以下																						
水銀	mg/m ³ N	0.05 以下																						
<p>(6) プラスチック等の資源化</p> <p>環境に配慮したプラスチック圧縮施設の検討 ビン・カン等資源化施設の検討</p>	<p>プラスチックの容器包装リサイクルに向けた圧縮梱包と異物除去や、ビンカンの選別、乾電池等の選別に必要な施設は、単独の建設が可能であり、熱回収施設等と一体整備する必要が無い。</p> <p>このため、規模に応じた面積を考えて、分散化する方向で考える。</p>	<p>検討委員会・第4回 (2011年8月29日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●不燃粗大処理施設、ごみメタン化施設、熱回収施設、プラスチック圧縮減溶化ラインは、新たに加わるものなので、分散化できるということであれば分散化、その場合の効率が悪化についても評価すべき。 ●プラスチックの資源化施設については、あの程度で収まるのなら数か所考えてもいいかと思う。焼却施設については早く手を付けてもらいたい。今のこれ以上の分別は無理だと思う。 <p>検討委員会・第4回 (2011年8月29日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「分散化」について、施設の一極集中は避けるという議論はしているから、分散化の方向性について合意をさせていただいているということではないか。(委員、うなづく) ただし、資源化施設についてどのように分類分けし、何箇所設置するかは未決定である。 <p>整備部会・第1回 (2011年9月29日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資源化施設は3箇所ぐらいに分散して建設する方がよい。 <p>整備部会・第2回 (2011年10月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資源化施設の所で分散化という話もしているが、プラスチックの圧縮・減容ラインとか、そういう所でもガスを測るなど、きちんと管理していくような規制を入れることが必要だと思う。 <p>整備部会・第4回 (2012年1月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プラスチックの圧縮施設に不安を感じる市民が多いため、圧縮施設にどのような環境対策をするのかということを示していただきたい。 ●基本計画の策定に関わっていない人には、施設整備にあたっての基本的なスタンスがよくわからないと思う。私が考える基本スタンスは分散化、低公害、燃やすのではなく資源化という3つである。少々コストがかかっても資源化を進めるべきというのがこの委員会の基本的なスタンスなのではないか。 ●施設の選定基準において、経済性を考慮する場合としない場合があり、経済性の扱いが矛盾している。候補地選定では、経済性を考慮している。 ●ペットボトルとプラを一緒に収集することについて、ペットボトルは、中身が残っていることがあり、収集の段階(パッカー車)で圧縮してしまうと他の物が汚れてしまうおそれがある。また、ペットボトルは先行して既に無料で集めているので、合意形成が難しいのではないかと思う。 ●プラについては、収集実験で15%ほど異物が混 	<p>検討委員会・第4回 (2011年8月29日)</p> <p>★資源化施設は分散化すること。</p>																					

入していた。石ころや紙や家庭の生ごみが混入しており、実験のため十分に説明してご理解いただいていたが、異物が出てきてしまった。それから、地域の意見交換会で、「安くていいから有料化にしてください」という意見があり、分けて戸別収集がいいのかなというところが審議会の結論になっている。

整備部会・第7回（2012年5月20日）

- ケース1：資源化施設の全施設を一体で1箇所を整備。 ケース2：資源化施設の全施設を半分の規模で2箇所を整備。 ケース3：プラスチック圧縮・減容化施設を1箇所、その他資源物（カン、ビン、ペットボトル、トレイ、紙パック、有害ごみ）処理施設を1箇所を整備。 ケース4：プラスチック圧縮・減容化施設の半分の規模を1箇所、残りの半分とその他資源物（カン、ビン、ペットボトル、トレイ、紙パック、有害ごみ）処理施設を一緒に1箇所整備。 ケース5：プラスチック圧縮・減容化施設を2箇所、その他資源物（カン、ビン、ペットボトル、トレイ、紙パック、有害ごみ）処理施設を1箇所整備。
- 優先順位はケース2が理想的。候補地の場所や面積によってはケース4。
- 分散した場合、効率という面から見て納得性が高いのはプラスチック資源化施設の分散である。

整備部会・第7回

（2012年5月20日）

★資源化施設の分散化は

ケース2：資源化施設の全施設を半分の規模で2箇所を整備。

>ケース4：プラスチック圧縮・減容化施設の半分の規模を1箇所、残りの半分とその他資源物（カン、ビン、ペットボトル、トレイ、紙パック、有害ごみ）処理施設を一緒に1箇所整備。

>ケース3：プラスチック圧縮・減容化施設を1箇所、その他資源物（カン、ビン、ペットボトル、トレイ、紙パック、有害ごみ）処理施設を1箇所整備。

の優先順位とすること。

ケース2	
プラスチック カン ビン ペットボトル トレイ・紙パック 有害ごみ	プラスチック カン ビン ペットボトル トレイ・紙パック 有害ごみ

ケース4	
プラスチック	プラスチック カン ビン ペットボトル トレイ・紙パック 有害ごみ

ケース3	
プラスチック	カン ビン ペットボトル トレイ・紙パック 有害ごみ

建設候補地選定

1. 候補地について

検討内容

人口とごみ量の推移	2027年度まで推計(基準年 2010年度)
資源化・処理対象物の設定	可燃・可燃性粗大・不燃及び不燃性粗大(資源分別後)・資源化物
建設候補地選定手順の設定	段階的な条件整理 一次選定(法的制約、土地利用計画等) 二次選定(制約条件、地形地質等)
市民意識調査結果の反映	広報、意見募集等からの選定条件・進め方等の検討

2. 候補地選定について

基本事項

項目	検討の方向性	委員意見等	決まったこと																														
市内における候補地選定条件と方法	○選定方式の条件を定める。 「一次選定」の条件 ・法律などにより建設できない地域を除外する。 (市街地、文化財、自然環境等) ・災害環境に対する安全性に配慮する。 ・既往の土地利用との整合性について、「特別緑地保全地区」「歴史環境保全地域」「緑地保全地域」等を除く。 「二次選定」の条件 ・収集運搬効率を考慮し2車線道路から500m以上を除外する。 ・隣接地に配慮し市境からの距離100m以内を除外する。 「三次選定」の条件 ・候補地選定の視点として重視すべき内容の重み付けを行う。 (機能面、環境面、土地利用、経済性、余熱利用等)	候補地部会・第5回 (2012年4月27日) ●他市では三次選定の段階でこの項目が入っており、候補地から市境まで実際何m離れているのかということを示し、それを評価している。 ●二次選定の段階で市境からの距離100mという基準を満たしているかどうかで不適地を除外していくよりも、市境からの距離を第三次選定の評価項目に加える方がよい。	候補地部会・第5回 (2012年4月27日) ★二次選定項目 ・学校、プール、体育館、下水処理施設を候補地から除外する。 ・「市境からの距離」という条件を二次選定条件から三次選定の評価項目に移行する。それに伴い、ごみ処理場(竜谷)が候補地に追加される。 ・分散化の規模により活用可能な現有施設として、リレーセンターみなみを資源ごみ処理施設の候補地に追加する。																														
候補地選定に関する情報提供と市民意見	○検討内容は、広報やホームページで随時情報提供をするとともに、一次選定レベルでの意見募集を行い、選定にあたり考慮すべき事項に反映する。		★広報まちだ特集号、環境広報「エコまちだ」、ごみ収集時のチラシ配布、町田市廃棄物減量等推進員と協働した周知活動など																														
市有土地利用又は用地取得の可能性調査	○資源化施設は市内に分散させ、熱回収施設とバイオガス化施設等は一箇所に整備する方向で規模等条件を整理した上で、実現可能な場所を候補地とする。 ○委員による市内確認	検討委員会・第9回 (2012年5月20日) ●民有地を候補に加え、検討する。 候補地部会・第5回 (2012年5月25日) ●「一次選定」の条件、「二次選定」の条件で、民有地を候補地に加える。 ●熱回収施設等(資源ごみ処理施設の候補地と重複)〔面積28,000㎡以上〕2ヶ所、資源ごみ処理施設〔面積7,500㎡以上〕4ヶ所の民有地を候補とする。	候補地部会・第5回 (2012年5月25日) 候補地は、以下とする。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%; text-align: center;">候補地</td> <td style="width:30%;">熱回収施設等(資源ごみ処理施設の候補地と重複)〔面積28,000㎡以上〕</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">資源ごみ処理施設〔面積7,500㎡以上〕</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">市有地</td> <td>(1)北部丘陵整備事業用地(a)サイト</td> <td>(4)北部丘陵整備事業用地(b)サイト</td> <td>(7)清掃第二事業場(ビン・カン)</td> <td>(10)図師緑地</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(2)町田リサイクル文化センター</td> <td>(5)北部丘陵整備事業用地(c)サイト</td> <td>(8)ごみ処理場(竜谷)</td> <td>(11)小野路小谷北緑地</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(3)小山上沼公園</td> <td>(6)鎌倉街道小野路宿緑地</td> <td>(9)野津田公園隣接緑地</td> <td>※リレーセンターみなみ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">民有地</td> <td>①山崎・下小山田・図師・小野路エリア(a)</td> <td>③相原エリア</td> <td>④-2山崎・下小山田・図師・小野路エリア(c)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>②三輪エリア</td> <td>④-1山崎・下小山田・図師・小野路エリア(b)</td> <td>⑤金森・鶴間・小川エリア</td> <td></td> </tr> </table>	候補地	熱回収施設等(資源ごみ処理施設の候補地と重複)〔面積28,000㎡以上〕	資源ごみ処理施設〔面積7,500㎡以上〕			市有地	(1)北部丘陵整備事業用地(a)サイト	(4)北部丘陵整備事業用地(b)サイト	(7)清掃第二事業場(ビン・カン)	(10)図師緑地		(2)町田リサイクル文化センター	(5)北部丘陵整備事業用地(c)サイト	(8)ごみ処理場(竜谷)	(11)小野路小谷北緑地		(3)小山上沼公園	(6)鎌倉街道小野路宿緑地	(9)野津田公園隣接緑地	※リレーセンターみなみ	民有地	①山崎・下小山田・図師・小野路エリア(a)	③相原エリア	④-2山崎・下小山田・図師・小野路エリア(c)			②三輪エリア	④-1山崎・下小山田・図師・小野路エリア(b)	⑤金森・鶴間・小川エリア	
候補地	熱回収施設等(資源ごみ処理施設の候補地と重複)〔面積28,000㎡以上〕	資源ごみ処理施設〔面積7,500㎡以上〕																															
市有地	(1)北部丘陵整備事業用地(a)サイト	(4)北部丘陵整備事業用地(b)サイト	(7)清掃第二事業場(ビン・カン)	(10)図師緑地																													
	(2)町田リサイクル文化センター	(5)北部丘陵整備事業用地(c)サイト	(8)ごみ処理場(竜谷)	(11)小野路小谷北緑地																													
	(3)小山上沼公園	(6)鎌倉街道小野路宿緑地	(9)野津田公園隣接緑地	※リレーセンターみなみ																													
民有地	①山崎・下小山田・図師・小野路エリア(a)	③相原エリア	④-2山崎・下小山田・図師・小野路エリア(c)																														
	②三輪エリア	④-1山崎・下小山田・図師・小野路エリア(b)	⑤金森・鶴間・小川エリア																														

